

Ⅳ-13 山村住民を対象とした交通ダイアリー調査

愛媛大学大学院 学生員 ○三谷卓摩
愛媛大学工学部 フェロー 柏谷増男
愛媛県土木部 正会員 山内敏通

1. はじめに

山村では人口が少なく、人口密度が低いいため住民サービスのための施設が不十分である。一方、山村といっても若い人々は、都市住民と変わらぬ生活スタイルを求めていると思われ、都市部への交通が不可欠である。そこで、山間地域の住民が日常どのような交通行動をしているであろうか。また、どの程度交通障害を乗り越えて都市部に出かけているであろうかということについて分析を行う。そのため、山村地域でも過疎化が深刻で、都市への交通障害の大きい愛媛県上浮穴郡内の美川村・面河村・柳谷村住民を対象とした交通ダイアリー調査を行った。

2. 調査について

調査対象者は、学生をのぞく1世帯2人ずつ、愛媛県上浮穴郡美川村・面河村・柳谷村の各40人、合計120人である。調査期間は2000年10月20日（金）から10月26日（木）までの1週間である。調査用紙の配布・回収は3村の役場のとりまとめ責任者の方を通じて行った。その後、調査用紙のチェックを行い、記入漏れや不明な点については、調査用紙に再記入していただき、回収を行った。配布した調査用紙は、属性調査票と活動日誌票の2種類である。属性調査票は、世帯構成（構成員の性別・年齢・世帯主との続柄・職業・運転免許の有無）と世帯の自動車保有台数、自宅・職場・主な活動場所の位置を記入してもらい、活動日誌票には、移動時刻、活動内容、目的地、交通手段、起床時刻、就寝時刻、村内における活動場所などについて記入してもらっている。図-1に調査用紙の活動日誌票を示す。調査の都合上、役場の職員を中心に調査をお願いしたので、実際の住民と比べると、年齢構成は若い人が多く、職業構成は公務員の人が多くなっている。

活動日誌票

記入者番号: 10月20日 (金)

時刻	場所	活動内容	交通手段
起床			
08:00			
09:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			
23:00			
就寝			

調査地域図

図-1 調査用紙（活動日誌票）

調査地域の美川村・面河村・柳谷村は、愛媛県の中予の南部にあり、大部分の地域が標高400m～1000mで高知県境に接している。人口は、3村あわせて約4500人である。都市部の松山までは、距離約50km、時間になると、1時間～1時間20分ぐらいの位置にある。また、通行には標高710mの三坂峠を超えなければならない急勾配、急カーブが存在し障害となる。

図-2に調査地域を示す。



図-2 調査地域

3. 調査結果について

表－1 1日あたりの平均トリップ数、ツアー数 外出率

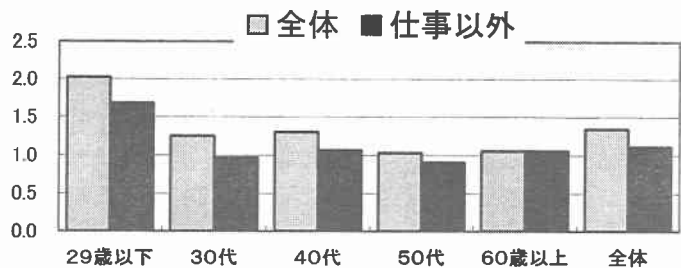
	男	女	平日	休日	全体
トリップ数	4.80	3.83	4.37	4.25	4.33
ツアー数	1.74	1.46	1.64	1.51	1.61
外出率	98%	87%	94%	89%	93%
対象日数	427	391	583	235	818

表－1に平均トリップ数、ツアー数 外出率を示す。全体の平均トリップ数は4.33回/日、平均ツアー数は1.61回/日、外出率は93%になった。男女では、トリップ数、ツアー数、外出率とも男性の方が女性に比べて大きくなっている。これは、男性の場合、外を回る仕事が多いこと、昼食のために家に帰る人が多いことなどがある。女性の場合、小さい子供がいると外出しにくいことが考えられる。休日と平日を比べると、平日がやや大きかった。

表－2 交通目的構成比

交通目的	トリップ	割合
通勤	645	19%
業務	466	13%
農林業	65	2%
送迎・付き添い	203	6%
買物	244	7%
外食	82	2%
通院	24	1%
地域の用事	82	2%
その他私用	134	4%
個人宅訪問	181	5%
レクリエーション	133	4%
帰宅	1209	35%
不明	12	0%
総数	3480	100%

表－2に交通目的構成比を示す。交通目的別のトリップの割合は、帰宅トリップが35%、通勤トリップが19%、業務トリップが13%、買物トリップが7%になった。山村住民では、交通目的に集会など地域の用事が存在する。また、レクリエーションでも体育館でのバレーなど地域の活動によるものが多い。



図－3 松山への1週間のツアー数

図－3に松山への1週間の平均ツアー数を示す。全

体の平均ツアー数は1.34回/週、仕事を除いた場合は1.11回/週であった。平均すると、週に少なくとも1度松山に行っていることになる。年齢別では、年齢の若い人の方が松山へ行く割合が高かった。男女別では、それほど違いがなかった。また、仕事を除いた場合でも7割の人が週に1度松山に出かけていた。3回以上も行っている人が約10%いた。平日でも10%が松山に出かけていた。

表－3 居住地別目的地

	美川村	面河村	柳谷村	久万町	松山	その他	トリップ数
美川村	795	6	14	160	140	8	1123
面河村	14	911	1	48	218	6	1198
柳谷村	11	6	984	61	122	38	1222

表－3に居住地別目的地を示す。各村相互のトリップは、ほとんど存在しなかった。美川村から久万町に行くトリップはやや多かった。久万町へより松山へのトリップが多かった。

表－4 休日の主な目的地 (対象は自宅を起終点)

目的地	上浮穴郡内				松山	その他	全体
	自宅	村内	久万	その他			
日数	27	73	33	10	61	5	209
割合	13%	35%	16%	5%	29%	2%	100%

表－4に休日の主な目的地を示す。自宅、村内にいるのがあわせて48%、村外に行く人は52%いた。村外に行く人で松山まで行っている人が半分以上みられた。

表－5 仕事後の主な目的地

目的地	村内	久万町	松山	その他	不明	全体
対象日数	346	29	17	3	1	396
割合	87%	7%	4%	1%	0%	100%

表－5に仕事後の目的地を示す。村内にいたのが87%、久万町に行くのが7%であった。また、仕事後にもかかわらず松山まで行っている人が4%存在していた。

4. おわりに

山村住民は、自宅にいて活動しないわけではなく、さまざまな活動を行っている。しかしその活動は、集会など地域の行事によるものや村外への移動などに時間を取られている。また、松山へのツアーは、休日や若い人ほど多く発生しており、仕事後の短い時間を利用する人や週に3回以上行く人もいる。山村住民にとって、松山への道路の整備は重要であると考えられる。